

# IoTの核心技術を担う組込みシステム技術

篠田 稔

一般社団法人 組込みシステム技術協会  
会長



我が国経済は、海外に起因する不安定要素はあるものの、政府の経済政策や日銀の金融緩和などを背景に輸出関連企業を中心に収益の改善が図られ、緩やかな景気回復が続いている。

他方、日本の産業構造は、デジタルイノベーション、オープンイノベーション、更にはAIの実用化も相まって、新たな時代を迎えつつある。その中において、組込みシステム技術の延長上に展開されるIoTの概念はこれらを支える共通基盤であると言えよう。

ネットにつながるIoT時代の特徴は、技術もさることながら、モノづくり、サービスにかかわらず、非ITベンダーをも含め、多くのステークホルダーが関与することである。従って、これらをいかにまとめ上げるかという協業推進力がビジネス成功の鍵の一つとなるであろう。

かつて組込みシステム業界は、サポーターインダストリーという言葉で象徴されていたように川下のモノづくりを中流、上流で支える企業の集合体として捉えられていた。もちろんどのような時代においてもモノづくりを支えることは重要である。しかしながら、IoT時代においては、サービスと川下製品やセンサを結び付けるコーディネーションが成功の鍵であり、そこに豊富な実現技術を持つ組込みシステム業界に新たな役割が期待されている。

サービス提供に当たっての重要課題は広義の信頼性である。個々の製品の信頼性確保はもちろんのこと、ネットにつながることによって生じる様々な、場合によっては新しい品質問題、セキュリティ問題などIoT時代の課題を解決してゆかねばならない。ここに当協会もIPA殿との連携がますます重要となるものと確信し、近年ソフトウェア高信頼化センター（SEC）殿と当協会の下記委員会で共同活動を進め成果を上げている。

1. 安全性向上委員会安全仕様化WG
2. 技術高度化委員会IoT技術委員会

この度の「組込みソフトウェア開発特集号」発刊は、上述の一連の方向性に則りIoTの基盤である組込みソフトウェア開発の重要性を再認識させる時宜を得たものである。

本年、設立30周年の節目を迎える当協会は、組込みシステム技術の高度化事業を中心に据え、関連するIoT技術の深耕、更にサービス事業などの他団体との連携により我が国の産業振興に寄与する所存である。